

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



GHE024-03

会場:301A

時間:5月22日 14:45-15:00

## 陸地測量部由来の初期の測量機について Early instruments of the Japanese Imperial land survey

大迫 正弘<sup>1\*</sup>

Masahiro Osako<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 国立科学博物館 理工学研究部

<sup>1</sup>National museum of nature and science

日本の全国測量は明治初期 1870 年代の半ばに内務省地理局を中心に始められ、そこでは英国から輸入した測量器械が用いられた。一方、陸軍においては江戸幕府から引き継いだフランスとのつながりを残しつつフランス流の地図製作が行われていた。国土の基本測量はのちに陸地測量部が行うことに一本化され、ドイツの器械を用いる方式に改められていった。国立科学博物館にはこのような日本の近代測量創始期の過渡状況を物語るような器械が保存されている。それには、1879 年に陸軍がフランスから大量に購入したものの一部と思われる天体（多能）経緯儀とピエルソン水準儀、ピエルニー羅盤（方位磁石）、さらにはアメリカ製 12 吋経緯儀などがある。また、のちに陸地測量部ではカーレ=バンベルク（バンベルヒ）の経緯儀・水準儀が主力の器械として使われるようになるが、その前に受け入れたと思われるドイツ製 9 吋経緯儀が残っている。これらフランス製・アメリカ製・ドイツ製の 3 台の経緯儀の箱には「陸地測量部台一号」（もとは旧字体）と記されていて、使われなくなりお蔵入りしたためおのおの 1 台だけ残しておいたようにも思われる。一方で、器械に添えられたのちのメモ書きには、ピエルソン水準儀とドイツ製 9 吋経緯儀は昭和の初めまで二等の測量に使われたとあるが、この記述にはやや疑問がある。主力にならなかった故にあまり言及されることのないこれら測量器械の紹介を兼ねて、このような初期に導入された機材のたどった経緯について述べてみたい。

キーワード: 経緯儀, 水準儀, 陸地測量部

Keywords: theodolite, level, Japanese Imperial land survey